真岡市行政評価システム

評価対象年度　令和7　年度　　**事務事業評価マネージメントシート**　　作成日　令和8年3月13日

事務事業名	移住定住促進事業		担当課・係	総合政策部　秘書広報課　シティプロモーション係
政策名　No	6	「魅力づくり」～市民の力アップ！～	関連する SDGs･DX	
施策名　No	1	都市ブランド戦略の推進		

成果指標 名称	単位	初年度からの実績値の比較 R7	R8	R9	R10	R11	目標値 R11
社会増減数	人	-55					100
真岡市に住み続けたいと思う人の割合	%	68.7					75.00

事業内容

①移住定住促進事業
人口減少対策及び「選ばれる都市もおか」への移住定住を促進し人口増加を図る。
　・オンラインを含む移住相談　・高校生を含めた若者定住促進事業　・とちぎしごと支援センター（公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構）と連携した事業　・デジタルツールを活用した情報発信
②シビックプライド醸成事業
本市の魅力や子育て支援などの住みやすさなどを広くPRし、本市のイメージアップに取り組む。
　・高校２年生を対象に本市の魅力を漫画で表現した「About MOKA」を配布しSNSでも発信した。
③地域おこし協力隊活用事業（移住定住・若者チャレンジコーディネーター）
各地域おこし協力隊は、本市に定住することを目的に、各ミッションに伴う地域活動に取り組む。
　・移住定住コーディネーター・・・地域の人々とつながり、暮らしを可視化し、市外へ情報発信する。
　・若者チャレンジコーディネーター・・・高校生たちが多様な大人と出会い、地域で挑戦できる場をつくる。

前年度の課題（Check）

【課題】・移住に関する戦略的な情報発信・Ｕターンを機運を高めるための高校生対象のシビックプライド事業の強化
【克服の方向性】R7年度の移住プロモーション戦略では、デジタルを活用し「日本一のいちご」や子育て支援などを提供できるように、特設サイト「もおかぐらし」の見直しを行い情報発信を強化する。また、高校生に対し真岡市ならではの体験をしてもらうことで郷土愛を育成し、若者がチャレンジできるまちづくりに取り組み移住定住につなげる。

7年度振り返り

【１】実績（Do）７年度に実施した事業
①移住施策の情報発信を強化、相談機能を追加するとともに、これまでのいちご就農に加えて移住戦略を策定した。
・移住プロモーション戦略の策定　・特設サイト「もおかぐらし」の掲載内容の見直し　・移住体験応援事業補助金交付事業の要綱見直し　・LINEによる移住相談の開始
・個別または複数自治体による移住オンラインセミナーの開催　・noteによる本市の暮らしの魅力発信　・デジタル広告の配信
②高校生を中心とした若い世代にデジタルによる本市の魅力発信を強化するとともに、真岡市に住んでいるからこそできた特別な体験を通じて若者の地域参画とシビックプライドの醸成を図った。
・高校２年生を対象に本市の魅力を漫画で表現した「About MOKA」の配布とSNSでの発信　・市内高校と連携したアプリ体験会等の実施
③移住定住コーディネーターは採用に至らず、若者チャレンジコーディネーターは退職したため、移住相談業務と真岡すきすきシェアクラブのファシリテーターは職員が対応した。

【２】結果と課題（Check）
①・先進地視察を踏まえて3年間の移住戦略を策定したことで、効果的かつ計画的に事業に取り組むことができるようになった。・移住体験応援事業補助金を拡充したため、今後は補助事業を周知し、利用者の増加を図る必要がある。・デジタル広告は認知拡大やLINE相談への誘導効果があった。　・真岡市移住・定住戦略にある都内の移住セミナーの参加費用の確保が課題である。
②・若者が参加してもらえる真岡市に住んでいるからこそできる特別な体験を検討していく必要がある。
③・R8年度から移住定住コーディネーターの着任が決定したので、連携した移住施策に取組む。若者チャレンジコーディネーターやいちごのまちコーディネーター（後任）の募集事務を実施し、地域活動の活性化を図る。

今後の方向性と具体策

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞り込み　□ 目的拡充　□ 事業統廃合　■ 事業のやり方改善　□ 予算削減　□ 予算増大　□ 現状維持(従来通りで特に改革改善しない)

【３】具体的な改善策(Action➡Plan)　課題に記載された内容の解決に向けた取り組みについて、**いつ、何を、どのように実施し解決に導くのかを具体的に**記載してください。

（1）ただちに取り組むべきこと
・令和8年4月から「移住ワンストップ窓口」を設置し、相談者の利便性を高めるとともに移住相談の強化を図る。
・令和8年度からnoteに掲載する移住者インタビューなど、移住検討者の関心を抱く内容を発信し、本市への認知を高め、本市の暮らしに興味を持ってもらう。
・移住検討者が相談することが出来て、移住後もトータルでサポートを受けられる環境を整えるため「真岡ぐらしアンバサダー」の組織づくりに向けて、令和8年度中に必要な要綱等を整備する。

（2）長期的な計画で検討すること
・「真岡ぐらしアンバサダー」を募集し、移住相談者とのマッチングや活発な活動をすることで、オーダーメイド型移住体験の参加者を増やす。
・「真岡ファンクラブ（仮）」を開設し、多様な人との交流（関係人口）を増やすことで、地域交流を深化させ二地域居住や移住へと導く。
　└令和8年度に実施予定の国の「ふるさと住民登録制度」の実証事業結果を踏まえ、検討を進める必要がある。